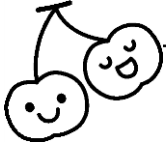


ねぎしょうちえんだより 6月号



地域とともに

園長 大村 弘子

今年度は、地域の祭りが通常開催となりました。町にはのぼりが立ち、屋台が並び、お囃子の音や掛け声が響き、ウキウキして華やいだ気持ちになりました。子供たちも山車を引いたりお神輿を担いだりしたようです。屋台で綿あめや焼きそばを買って食べたりゲームを楽しんだりする経験も久しぶりにできました。

次の日、年長ぞう組はさっそく友達と一緒にお神輿を作り、園内のテラスを練り歩きました。祭囃子の音に誘われて年中うさぎ組や年少ことり組もやってきます。ぞう組は、自分たちの神輿をうさぎ組やことり組に担がせてくれ、ひとしきり練り歩くと「休憩です」とお神輿を下ろし、「並んでください」と担いでいた人達を並べます。そして、「はい、どうぞ」とお菓子の空き箱を配っていました。うさぎ組やことり組の子供たちはうれしそうに並んでお菓子（の箱）をもらい、お菓子があるつもりで食べていました。「こんなにいっぱい、（お菓子を）もらっちゃった」とうれしそうに話し、楽しんでいました。お菓子をもらったことが印象に残ったのかなとほほえましく思いました。

また、うさぎ組やことり組では「マイ神輿」を空き箱や紙で作し、自分の肩に乗せて担ぐ姿も見られました。自分のリズムで担げることが心地よいのだと思います。

さらに、ぞう組は「わっしょい、をやります。きてください」と書いた紙を他のクラスの子や教師に配っていました。これは、以前幼稚園でお店屋さんをしたときに、お客さんを集めるためにチラシ（招待状）を渡したことを思い出した、または、地域の方からいただいたお祭りのチラシを覚えていたのだと思います。子供たちは経験したことを自分の学びとし、次に生かして遊びや生活を豊かにしていきます。

地域での経験は、園や家庭では経験できない、心が躍る魅力的なものです。だからこそ、次の日すぐに再現したのでしょう。地域の賑わいや地域の方の温かき威勢のよい心意気は子供たちの心や体にため込まれて、地域への親しみや地域を愛する心を育んでいきます。また、地域のつながりは、子供たちを守り育ててくれます。地域の方は子供たちが困ったときに助けてくれる、楽しいことを一緒にやってくれる、など子供たちの応援団になってくださいます。これからも地域の幼稚園として、地域との関わりを積極的に取り入れていきたいと思っております。